



白樺会の皆様

いつも札幌聖心のために一心にお尽くしいただき、深く感謝申し上げます。
この度、2025年3月で閉校となりましたこと、誠に申し訳なく、伏してお詫び申し上げます。
ネット上に札幌聖心のアーカイブと出会いの場を作りたいと願っております。
そして、25年3月前には、Homecoming Dayで札幌聖心の家族が集う機会を持ちたいと願っております。今は天国に住まいを移したシスターたちや先生方と共に、感謝を込めて皆様の上に豊かな祝福とお恵みをお祈り申し上げます。

深い感謝のうちに、祈りをこめて

2021年11月5日

田口保子

9月に初期の癌の手術を受けられた折は、白樺会有志の皆様が、母の会、茂仁香会と共に時刻を合わせてお祈りくださったとうかがい、深く感謝申し上げます。今は放射線治療中ですが、勤務に戻り、一日一日の恵みを大切に味わいながら、未来を切り拓く準備をする生徒たちと共に過ごせることに感謝しております。

今月の聖句

闇の中を歩む民は、光を見た。

イザヤ書 9章 1節

クリスマスに生徒たちが英語で暗唱するイザヤの預言のこの一節は、遠い昔の出来事ではなかったと感じる今日この頃です。

「起こる出来事をどのように受け取るかで人生が変わってきます。」と常々言っている私ですが、閉校にいたる理由は、頭ではよくわかっている、心が「なぜ！」と叫ぶ思いの中で、先日の発表を迎えました。

その後、保護者、卒業生、そのご家族の皆様からメールやお便りをいただきました。どのお言葉にも、私を導く光がともっていました。ある生徒のお母様からは、虹の写真が届きました。「保護者会の間に、『札幌での学びを生かし、世界に開かれた窓からよくよく見渡してご覧下さい。こんなにも可能性に満ち溢れている』と声が聞こえました。窓の方を見ると、外には綺麗な虹が掛かっておりました。学校の歴史が終わりましても『札幌聖心で生まれたたくさんのご縁と学びは永遠に滅びることはないのだ』とはっきりと声を聞いたのです。親子共々学びを深め、世界中に愛を届けることができるよう邁進していきたいと思います。」写真を眺め、大事な一人ひとりの

生徒の未来には必ず希望の虹がかかっていると確信しました。

ある卒業生のお母さまは、前に進めるようにと激励で歩みを照らしてくださいました。

「札幌聖心が使命を終えることを知り、私もショックで呼吸が上手く出来ないほどです。でも、私はまず感謝します。素晴らしい学校や人々と出会えたことに。悲しむより感謝します。幸せを感じていたから悲しみが生まれます。送り出した 5000 人以上の生徒は世界中で頑張っています。負の感情からは負の連鎖しか生まれません。ご自分が人生を掛けて頑張られた札幌聖心という学校。素晴らしさを認め、顔を上げしっかりと前を向いて、これから向かうべきことに皆で力を合わせ立ち向かいましょう。」

そして生徒たちの言葉。「学校がなくなっても札幌聖心は私の心の母校であり、聖心の教育は私の心の軸であり、札幌聖心での思い出はずっと心に残っています。苦渋の決断であったと思いますが、私たち生徒はみな、ほんとうに大きな愛をここでいただきました。ありがとうございます。」教職員、修道院一同の歩みに光が差し込みました。

これらの光に導かれ、残るいのちを燃やして託された生徒たちのために尽くし、卒業生とご家族のために祈りつつ歩みたいと願います。

[チャプレン Sr.田口保子]

